

“Play Hard”を貫き、ようやくつかんだ甲子園での夢舞台 ～コバルトブルーの選手たちと共に過ごした特別な7分間、完全燃焼の夏～



2020年 甲子園高校野球交流試合出場
福島県立磐城高等学校野球部 前監督

木村 保さん

福島県立福島商業高等学校 数学科教諭
福島県高等学校野球連盟 副理事長
平成5年3月 工学部 電気工学科卒業



選抜決定の知らせをうけ
胸上げされる木村監督

高校教師として28年経ちますが、高校教師を目指すようになったのは、高校時代に達成できなかった「甲子園出場」という夢を指導者という立場で実現したい一心でした。2015年、縁あって母校でもある磐城高校野球部に監督として就任させていただき「Play Hard～全力疾走・全力プレー～」という言葉掲げました。「どんな状況でも、勉強も野球も全力で最後までやり遂げる」、選手たちはそれをコツコツと実践してきました。

着実に古豪復活の兆しが見え始めた昨秋、台風被害に遭遇しながらも公立高校唯一の東北大会ベスト8進出を果たし、46年ぶりに21世紀枠での春の選抜甲子園出場という吉報が届きました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大による選抜中止、私の福島商業高校への異動、夏の地方大会中止等、激動の日々を過ごしました。

そんな中、選抜出場予定だった32校で8月に甲子園高校野球交流試合が開催されることが決定し、異動で3月末に磐城高校を去っていた私も特別にノッカーとして甲子園に同行することとなりました。

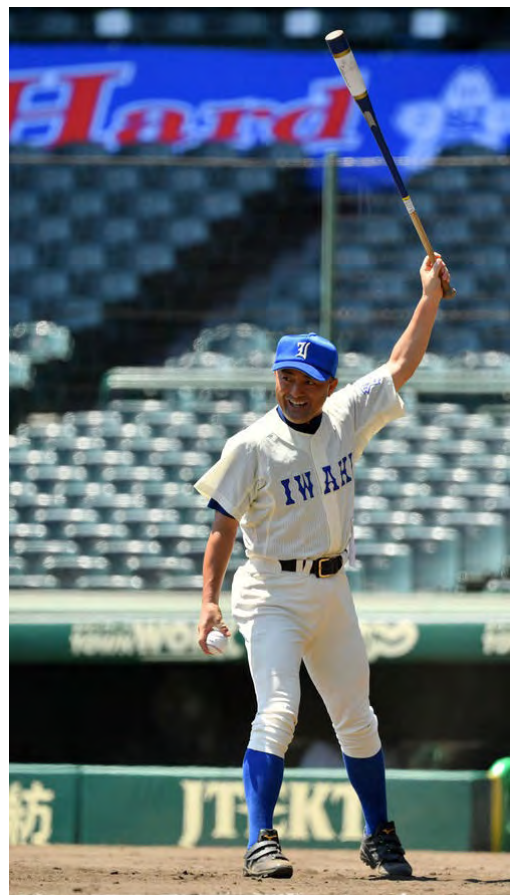
ようやくつかんだ夢舞台、試合前にノッカーとして参加した甲子園は夢のようでした。こんなにも人生の中で特別で濃密な7分間を過ごしたのは初めてであり、1球1球魂を込めて打つことが出来、かけがえのない時間となりました。強豪国士舘高校との対戦結果は3対4の惜敗となりましたが、選手たちは粘り強く、我慢強く、泥にまみれながら最後まで諦めず見事に“Play Hard”を体現してくれました。



磐城高校監督時代 秋東北大会にてミーティング

大学時代は、教職課程を履修するため夕方からの講義に出るのが大変で苦労しましたが、体育会の硬式野球部にも所属し、東京新大学リーグで3部優勝、入れ替え戦にも勝利し2部で戦うなど充実した生活を送ることができました。さらに4年次には体育会会長も務めさせて頂き、当時の仲間たちには本当に助けられました。この貴重な経験はいまでも生かされています。

学生の皆さんも自分の夢の実現に向けて、身近な目標を明確にし、1歩ずつ自分の未来の道を切り開いてください。私も“Play Hard”の精神を持ち続け、数学科教師として数学の魅力、県高野連の一員として高校野球の魅力を発信していきたいと思います。



ノッカーとして甲子園の左打席に立つ木村監督